

病院の実力「胃がん」の宮城編では「くらし健康面」で掲載した病院に加えて、県内で回答のあった全医療機関のデータを紹介する。もっとも豊富な治療実績を持つのは、仙台厚生病院(仙台市青葉区)の消化器センターだった。胃がんの内視鏡治療に力を入れており、実施件数は外科手術のほぼ2倍に上る。

内視鏡治療は、リンパ節転移のない早期の胃がんが対象だ。以前はがん組織の根元にワイヤをかけ、高周波電流で焼き切る方法が主体だったが、現在は、特殊な電気メスでがんをはがし取る粘膜下層剥離術が普及した。

同病院の長南明道副院長は「比較的大きながんも1度で切除でき、がんを取り残す恐れは、ほとんどなくなりまし」と、2003年から導入した剥離術のメリットを説明する。

## 仙台厚生病院 内視鏡治療 剥離術入院10日程度

### 胃がん

同病院では、不安を募らせる患者の気持ちに配慮し、原則初診から2週間以内に治療を実施するように努めている。平均治療時間は60分余り。治療中は麻酔で眠り、内視鏡を出し入れするつらさを感じることはない。治療翌日から流動食を再開し、入院が10日程度で済む点も、患者の負担を軽減する利点だ。

一方、剥離術に伴う問題としては、施術後の出血事例

が5～6%、また胃の壁に穴があくケースが1～2%の割合で発生している。もちろん、問題が見つかり次第、再び内視鏡で対応するが、どんな治療にもリスクがあることは、肝に銘じておきたい。

剥離術は比較的新しい治療法のため、長期生存率のデータも、まだ十分集まっていない。ただ、長南副院長は「当院では、退院した患者さんに、

定期的な内視鏡検査をお願いしています。これまで転移や再発が起きた事例は見つ

っていません」と話しており、過度に心配する必要はなさそう

### 早期の腹腔鏡手術も

内視鏡治療の適用が難しい場合は、胃とリンパ節を切除する開腹手術を行うことが多いが、早期ならば、腹腔鏡手術を実施する病院も増えてきた。県内では、東北労災病院

(仙台市青葉区)などが導入している。おなかに1センチ強の穴を4、5か所開け、カメラや超音波メスなどを挿入し、モニターの映像を見ながら切除する。

おなかを大きく切らないため、回復が早く、傷跡も目立ちにくい。反面、技術の習得が難しく、医師の技量にばらつきがある。大腸がんに比べると治療成績を検証する研究も少ない。治療を受ける前に、医師の経験や実績を確かめ、本当に納得できるまで話を聞くことが大切だ。

### 病院の実力「胃がん」

2007年治療実績 (読売新聞調べ)

医療機関名	治療件数 (手術と内視鏡治療)	手術	うち腹腔鏡	内視鏡治療	うち粘膜下層剥離術
仙台厚生	389	134	0	255	248
仙台オープン	326	163	0	163	147
石巻赤十字	254	132	23	122	62
東北労災	182	81	40	101	31
大崎市民	180	119	0	61	14
宮城 県立がんセ	170	100	1	70	45
国・仙台医療セ	132	93	5	39	36
東北厚生年金	121	54	2	67	64
みやぎ県南中核	63	48	0	15	15
登米市立佐沼	26	26	0	0	0
福島 太田西ノ内	320	192	0	128	66
総合南東北	196	116	0	80	77
県立医大	143	63	12	80	80
坪井	125	81	4	44	30
会津中央	115	70	5	45	45
公立藤田総合	45	26	0	19	18

「国・」は独立行政法人国立病院機構。「セ」はセンター。

\*全国の調査結果は「くらし健康面」に掲載しています。今回の地域版掲載は12月7日「大腸がん」の予定です。

経験豊富な専門医たちが内視鏡のモニター画像を見ながら治療を進める(仙台厚生病院で)

